様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 22 年 4　月 30 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19390561
研究課題名（和文）新生児集中治療を受けている子どもの家族に対する早期介入モデルの開発と評価

研究課題名（英文）Development and evaluation of the early intervention for families with children who were hospitalized in NICU

研究代表者
中山　美由紀（MIYUKI NAKAYAMA）
大阪府立大学看護学部　教授
研究者番号：70327451

研究代表者の専門分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学
キーワード：(1) NICU　(2) 育児支援 (3)家族看護　(4) 家族発達　(5) ハイリスク児

１．研究計画の概要

本研究は、NICU に勤務する臨床の看護師とネットワークを構築するとともに、NICU に入院している子どもをもつ家族に対して、アセスメントツールの有用性を検証し、さらに健全な家族の育成、促進をするための育児支援を実施する。そのあり方、および評価について検討し、効果的な早期介入の具体的な方法を開発することを目的とし、以下の４つの課題を実施している。

１）NICU に入院している子どもをもつ家族に対する家族機能に着目した家族看護アセスメントツールを臨床に活用するために、活用前後における家族への看護実践内容の比較検討
２）臨床看護師とのネットワークの構築のための事例検討会
３）NICU における家族への早期介入のモデルの開発と評価
４）健康な子どもをもつ家族機能の変化についての調査

２．研究の進捗状況

本研究の目標を達成するために上記１）～４）の課題に関する進捗状況

１）アセスメントツールに関しては、アセスメントツールを作成し、臨床で使用を試みた。臨床看護師から使用前後についてデータを収集し、分析した。

現在、臨床で活用すべき改訂版を作成し、看護師から評価をしていただいている段階である。また、家族に対して看護をする中でその重要なこととして、家族面会がある。しかし感染の問題から面会の制限などがある。この状況について看護師の認識について研究を行った。施設により感染対策は異なり、看護師は家族面会という視点からその状況を受け入れているもの、そうでないものなど様々であった。これらは論文投稿している。

２）臨床とのネットワークとしても事例検討会を毎月開催しており、臨床看護師が毎回 20 名程度参加し、施設間の情報交換なども実施している。
３）看護師が家族に早期介入するために、必要な媒体としてのパンフレットを臨床看護師とともに作成している。看護師からのメッセージとして、介入に用いる予定である。
４）健康な子どもをもつ家族を対象とした調査では、親役割、仕事役割と子どもをもつことによる変化、心理的健康度、親が認識する子どもの気質、親役割の関連を分析した。現在子どもが５歳児になるまでのデータ収集が終了し、縦断的に分析している。

３．現在までの達成度

③やや遅れている。

１）アセスメントツールに関しては、改訂版を作成したが、まだ、最終版でない。今後はこのツールの再評価をする必要がある。
２）臨床とのネットワークとしても事例検討会を通して構築できている。
３）NICU における家族への早期介入のモデルの開発に関しては、介入の媒体としてのパンフレットを臨床看護師と作成中である。

４）健康な子どもをもつ家族を対象とした調査では、現在子どもが５歳児になるまでのデータ収集が終了した。横断的な結果の発表は実施している。

以上のように達成しているが、当初の計画通りであれば、本年度は、介入モデルの評価の年度である。しかし、介入の媒体としての、パンフレットの作成段階である。理由として、NICU での家族介入を看護師が実施するにあたり、家族から情報収集する難しさなどからアセスメントツールの活用が現場で十分できなかったこと。介入をモデルの開発に当たり、臨床看護師との討議で、介入媒体の作成に向け、時間を要していることなどがあげられる。介入モデルの開発は期限内で完成が可能であるか考える。評価として、看護師からの評価を得ることは可能であるが、家族からの評価を十分に得ることは難しいと考える。

４．今後の研究の推進方策

１）アセスメントツールに関しては、改訂版を作成した。臨床看護師から再評価を受け、最終版として発表する。

２）臨床とのネットワークとしても事例検討会を継続する。

３）NICU における家族への早期介入のモデルの開発に関しては、介入の媒体としてのパンフレットを入院編、育児編として完成させ、介入に活用する。
さらに、完成したパンフレットは公表する。
健康な子どもに対する家族の変化のデータから、介入の項目を検討し、介入モデルを開発し、介入実践者と家族から評価を得る。

４）健康な子どもをもつ家族を対象とした調査では、現在子どもが５歳児になるまで縦断的データについて分析を継続し、研究成果を印刷物として公表する予定である。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1 件）

１）藤野百合,中山美由紀：NICUにおける家族への看護介入に関する文献的考察,母性衛生,51（1）,170-179,2010(査読あり)

〔学会発表〕（計　12 件）

１）中山美由紀,福丸由佳,小泉智恵,無藤隆：子どもの誕生と発達　第５報(1)-妊娠期から産後 2 年までの母親の親となる意識の変化-,日本発達心理学会第 21 回大会,2010,3,神戸.

２）福丸由佳,中山美由紀,小泉智恵,無藤隆：子どもの誕生と家族の発達　第５報(2)-2 歳児の父親における子育て支援のニーズと、仕事と家庭の両立意識-,日本発達心理学会第 21 回大会 2010,3,神戸.

３）藤野百合、中山美由紀：NICU看護師の家族観と家族看護の実践－家ニーズの把握を中心に－,第 50 回日本母性衛生学会総会,2009,9,横浜

４）Miyuki Nakayama,Yuri Fujino：Family-centered Nursing Practice in NICU; An Analysis of Interviews of 11 Japanese Nurses, 9th International Family Nursing Conference, Reykjavik, Iceland,2009,6.

５）小泉智恵,福丸由佳,中山美由紀,無藤隆:子どもの誕生と家族の発達　第４報(2)-妊娠中の夫婦関係と、産後の親となる意識との関連－,日本発達心理学会第 20 回大会,2009,3,東京.

６）福丸由佳,小泉智恵,中山美由紀,無藤隆：子どもの誕生と発達　第 4 報(1)-妊娠期の夫婦関係と生後 1 年時点での仕事と家庭の多重役割の状況-,日本発達心理学会第 20 回大会,2009,3,東京

７）藤野百合,中山美由紀：新生児集中治療室(NICU)における家族面会と感染対策に対する看護師の認識, 第 49 回日本母性衛生学会総会,2008,11,東京.

８）Nakayama M, Koizumi T, Fukumaru Y , Muto : The relationship between self-oriented perfectionism and mental health in mothers, 10 t h International Congress of Behavioral Medicine,2008,8,Tokyo, Japan.

９）中山美由紀,小泉智恵,福丸由佳,無藤隆：子どもの誕生と家族の発達　第３報―親としてのイメージと子どもの気質, 日本発達心理学会第 19 回大会,2008,3,大阪.

10）小泉智恵,中山美由紀,福丸由佳,無藤隆：ライフスタイルと家族の健康の縦断調査第４報（２）, 日本心理学会第 71 回大会,2007,9,東京

11）中山美由紀,小泉智恵,福丸由佳,無藤隆：ライフスタイルと家族の健康の縦断調査第４報（１）, 日本心理学会第 71 回大会,2007,9,東京

12）Yuka Fukumaru, Miyuki Nakayama, Tomoe koizumi, Muto Takao : Marital relationship and mental health of couples who have young children in Japan, 20th World Congress on Psychosomatic Medicine, 2007,8,Quebec, Canada